

第3回学校運営協議会 議事録

実施日：令和7年2月21日（金）

時 間：14：15～16：45

場 所：六郷高等学校

出席者

栗林 守	美郷町教育委員会教育長
後藤 智之	教育振興会会長（外郭団体代表）
熊谷 尚輝	P T A会長（保護者代表）
鈴木 正洋	地元メディア「美郷の話題」代表
長谷川幸子	美郷町議会議員・議会広報常任委員会委員長
藤岡 誠人	町活性化団体（地元N P O団体代表）
西村美智恵	前P T A会長
高橋 郷	福祉施設経営者
梶原恵美子	美郷町地域おこし協力隊
伊藤 哲	校長
坂本 卓也	教頭
佐藤 香	進路指導主事
照井 正喜	特別活動部主任
佐藤 隆弘	生徒指導主事
石川 昇	教務主任
高木 敦子	福祉科科长
鎌田 裕太	総務副主任・C S担当

1 開会行事 司会：鎌田

- (1) 学校運営協議会会長あいさつ（当日急用のため欠席）
- (2) 校長あいさつ

学校評価に基づいた次年度の方向性を定めるための御提言をいただきたく、忌憚のない意見をお願いしたい。佐藤会長は急用のために本日欠席である。会長に代わり私が進行役を務めさせていただく。

用意した資料に基づいて今年度の取組について説明する。

① 六高プロジェクト

六高プロジェクトは、授業と部活動の間にある活動として、部活動に入っていない生徒などが、自己有用感や自己肯定感をもつことができるように昨年度始めた。

② プログラミング教室

プログラミング教室はこの冬休みで6回目を迎え、他校にはない本校独自の取組である。大曲支援学校での出張プログラミング教室は去年から行っている。今年度は2回実施しており、1回目は9名、2回目は15名の本校生徒が講師として参加

した。

③ しいたけ栽培

しいたけ栽培は、今年は空き教室を利用して行っている。

その他、教室の扉の塗り直しをゴールデンウィーク頃から夏休みにかけて行った。入試に向け、最近硬式野球部の生徒が男子トイレの塗り直しを行った。

サニーレタスを水耕栽培で育てる取組も行っている。

しいたけ栽培や水耕栽培にかかる経費は、齋藤憲三・山崎貞一顕彰会の助成金を使用している。今年度の取組が優れた研究として銀賞を受賞し、来年度の活動に向けた奨励金12万円を得ることができた。

公式SNS（インスタグラム）を立ち上げた。情報担当の教員が硬式野球部や福祉科の活動を動画で紹介している。生徒募集のためにはSNSのようなツールを使用しないとなかなか活動内容を周知できないと考えて始めた。

入学者選抜がまもなく始まる。現在の受検予定者は36名であり、2次募集も含めて40名ほどの入学者を確保できないかと願っている。生徒募集について案があればお願いしたい。

2 協議

(1) 学校評価結果の説明（教頭）

委員の皆様へ1月にお送りした学校評価の資料について説明する。なお、同じ資料を用いて2月14日（金）に校内でも評価会議を行った。学校評価について委員の皆様からご意見をいただき、次年度に向けた改善につなげたいと考えている。

○保護者・生徒の学校評価について

令和5年度から生徒の評価も行っている。今年度は保護者、生徒ともに肯定的な意見が多く見られた。何点か取り上げて説明する。

設問1 教育目標の周知と、設問2 情報発信について。

学校の教育目標や学習活動が概ねよく伝わっている結果であるが、伝わっていないという評価も0ではないため、これを0にしたい。第2回の学校運営協議会でも話題に上がったSNSによる情報発信を始めたため、SNSを通じた保護者への情報提供が今後可能になる。

設問4 地域連携、設問17 コミュニティ・スクールについて。

地域連携について保護者、生徒ともに肯定的な意見が多い。地域のマンパワーなどの資源を用いた活動についてお話をいただいている。

設問5 授業理解について。

授業がわからないという生徒が一定数いる。朝学習でeラーニングを行っている。eラーニングのアンケート結果は好意的な意見が多かった。義務教育段階の学習の学び直しに役立ったという生徒は88%、高校の授業内容の理解に役立ったという生徒が80%、基礎学力が向上したと回答した生徒が76%であった。令和7年度も継続してeラーニングを実施したいという生徒が75%であったため、次年度も継続する方向で検討している。

設問18 もっと力を入れてほしいことについて。

保護者、生徒ともに最多の回答は、進路に対応できる学習指導であった。高校は入学するだけでなく、卒業後の進路について保護者、生徒ともに意識していることが分かる。

今年度の学校評価の特徴として、部活動に関するアンケートへの反応が薄くなってきている。部活動加入率が減少した影響があるのか、部活動に対する要求や気持ちが中学生の頃と比べて弱くなってきているのか、現段階では判断はつけられない。部活動の活性化について話を進めていたが、第2回学校運営協議会でも話題に上がった緩い部活動のようなものが必要なかもしれない。

保護者の自由記述について。感謝の言葉が多くあるほか、提案するような記述が増えており、各分掌主任と次年度に向けて検討するべきであると捉えている。

教員の学校評価について。昨年評価が低かった内容は組織運営、危機管理、学校開放、教科指導であったが、改善が見られる結果となった。職員が努力し協力関係の良さが表れた結果であると考え。特に生徒の遅刻が大幅に減少したことは職員自体も手応えを感じている。生徒の読書活動については校内組織の問題で評価が低く、次年度の課題である。この他、個に応じた指導の在り方、福祉科希望者の増加への取組が必要であることを課題として考えているようだ。

本評価アンケートについては、年度内にホームページで公開予定である。

(2) 意見交換

(校長) ※司会

評価の高いところよりも、自由記述や評価の低いところについて何かご意見をいただければと思う。

(栗林委員)

遅刻者減の秘策は何であったか。

(校長)

昨年までは8:30登校完了、読書、8:45SHRという日課であった。SHRに間に合えば遅刻にならないという考えが一部の生徒の中に根付いてしまっていた。今年は8:30からSHR、学び直しという流れに変えた。また、職員が玄関で指導したり、遅刻状況を家庭に連絡したりして遅刻防止の対策を行った。

(栗林委員)

日課にしる、当たり前と思っていると改善に繋がらない。日課を変えるという思い切ったことをしたのは評価できる。肯定的な意見が多く、職員の頑張りが見られる。

生徒アンケート結果から3つ伺う。設問6、7、8の行事について、見直してもらいたいというのはどんなことを希望しているかを把握しているか。設問11の休み時間や昼休みが楽しいという数字が高いが、これをどう捉えるか。設問18の主體的に生き方を考えられる進路指導をしてほしいという要望に対しては学校としてどのように考え、具体的にどんな取組をしているか。

(特別活動部主任)

行事の見直しについては、具体的に何を望んでいるのかはわからない。毎年、生徒会執行部と職員で協議して決めている。生徒減のため、10名に満たないクラスもあり毎年協議する必要がある。行事の運用の仕方を変えていかなければならない。

運動の苦手な生徒が活躍できるようにオセロのようなボードゲームをクラスマッチに取り入れた。

(校長)

生徒会や体育委員等の一部の生徒の意見を行事に取り入れている。見直しを希望している意見は、おそらくそれ以外の生徒から出されたものではないかと考える。次年度は、より多くの生徒の意見を吸い上げられるようにしていかなければならない。

(1年生担任：鎌田)

1年生の担任をしている。休み時間や昼休みが楽しいというのは、新しいクラスメイトとも打ち解け、学校に慣れてきた証であると感じる。しかし、学年が上がるにつれ、楽しいだけの時間ではなく、時には進路に向けた準備の時間にもしてもらいたい。自発的にこういった準備ができるように指導していかなければならないと考える。

(生徒指導主事)

3年生の担任をしている。生徒会誌に載せる各クラスのコメントを見ると、仲の良さが伝わる内容となっている。昼休みに体育館で体を動かす生徒もおり、授業に入る前の気分転換を行っている生徒もいる。こういったことがアンケート結果につながっているのではないかと考える。

(校長)

校内を巡回すると、休み時間に廊下に出て隣のクラスの生徒と話す姿も見られる。人数が少ない分、全体的にクラスを越えて仲が良いように感じる。

(進路指導主事)

進路を求人票や偏差値だけで決めるのではなく、どう生きていくかを考えて進路選択をしてもらいたい。キャリア教育の一環として、「人生の先輩講話」を実施し、自身のことや、社員のこと、人生経験について講話をしてもらった。生徒から多数の質問があり、現在まとめている。商工会の協力を得て、地元企業の若手社員の方々と話をする機会も設けている。ボランティアを含めて、キャリア教育になりうることを、地域の力を借りながら進めていきたい。教員以外の言葉を聞く機会を増やしていきたい。

(校長)

我々の認識と生徒の認識が乖離していることも考えられる。我々が良かれと思っていることが、生徒にとっては不必要である場合もある。生徒が考えていることの把握に努めなければならない。

(藤岡委員)

高校生が職業を選択する際、「何をするか、何をしたいか」よりも、「どう過ごすか」を優先している気がする。生徒が就職先を選ぶ際、どういったことを優先し

ているかわかれば教えてもらいたい。

(生徒指導主事)

給料や休暇等の求人票の情報をよく見るように指導をしている。履歴書の指導をしたが、志望理由を見ると「したいこと」や「得意なことを仕事にしたい」と述べているものが大半であった。

(校長)

3年生の面談を行ったが、求人票の見方がきちんと分かっていない生徒もいた。お金の感覚がまだまだ未熟であると感じた。これをどう教えていくかを考えていかなければならない。給料がよいことより、自分の時間が取れるなど、別の要素を優先するようになってきているようにも感じる。

(西村委員)

生活するのにどれくらいお金が必要かを分かっていないと思う。

(熊谷委員)

生徒の設問11のどんなときが楽しいのその他の回答に、3年生と1年生で、「トイレに居るとき」と回答している生徒がいる。教室にいるのが苦痛でトイレにいるときに開放されてゆっくりできるという意味なのか。トイレで自由にいられるからなのか。いじめがあることを示唆している回答にもなりうる。掘り下げることができ、改善できるならお願いしたい。

保護者アンケートについてだが、昨年はいじめに関する記述が数件あったが、昨年よりも減っている。しかし、昨年同様、双方の意見を聞いてほしいとの意見があるということは、先生方にはもう少し踏み込んで対応してもらえればいいのではないかと考える。また、このことについて双方に様々なバックボーンがあることを予測しながら対応してもらいたい。

自転車のマナーが悪いということについては、昨年も同様の意見があったと思う。2年連続で意見が出ているということは何かしら改善が必要である。自転車競技部がある学校であればなおさらルールの徹底をしてもらいたい。

学校祭の食べ物については、学校のみならず、PTAサイドの配慮も必要だったと思う。準備段階からPTAの協力を得てもよいのではないか。様々な業種で働くPTA会員がいるので食数の計算等アドバイスもできると思う。

最近気になっていることは、保護者の送迎についてである。降車位置が守られていない。冬は雪が道路を狭めて特に危険であり、地域の皆さんにとっては非常に迷惑なことである。事故が起こってからでは遅い。地域と連携したいのであれば、コンスタントに啓発を行ってもらいたい。

(校長)

トイレにこもっている生徒はいない。トイレに友人と一緒にいくような傾向がある。しかし、最悪のことを考えて対応したいので、回答を確認する。

学校祭の食べ物については、事前の食券販売等を考えていきたい。

道路状況については把握はできていない。

(熊谷委員)

道路状況については学校の問題というより保護者の問題である。

(校長)

状況を確認し、本日中に緊急メールを送る。

(熊谷委員)

バス停で停まるのは特に危ない。

(生徒指導主事)

バス停から信号までは停車禁止になっている旨を4月に周知している。

(高橋委員)

学校に降車スペースはないのか。学校の前がいけないというよりも、どこでもだめだと思うので、学校の敷地内で用意できればよい。

(鈴木委員)

美郷中学校はロータリーを用意している。

(熊谷委員)

送迎者が、子どもを降ろしてそのまま出勤したいという気持ちも分かるがルール上よくないことである。学校からというよりも、PTA会長から注意喚起をしてもよい。だれかが停めてしまえば連鎖してしまう。

(高橋委員)

迎えの場合はどうなっているか。

(熊谷委員)

近隣の店舗等で待っている。

(生徒指導主事)

迎えの際に道路で停まっている保護者はいない。17:30以降であれば校地内に入り待つことが可能である。

(藤岡委員)

教室棟側の通りで降ろすのを見かける。この道路は中学生の通学路になっているので気になっている。保護者にはどう伝わっているか。

(後藤委員)

その通りはスクールゾーンとなっているから止められないものとなっている。

(校長)

標識があるのであればきちんと守らなければならない。

(後藤委員)

中央体育館のあたりから歩いてくるのが理想だと思う。

(熊谷委員)

学校前から十字路まではやめてもらいたい。渋滞ができてしまい、信号を渡れない車もあり迷惑である。

(校長)

状況を把握した上で対応する。取り急ぎ本日、緊急連絡で注意喚起を行う。いじめに関しては、生徒の話を聞いていると「そんなつもりはなかった」と言う生徒もいる。双方の理解が得られるよう取り組んでいく。定期的に情報収集もしているがSNS関係のトラブルが多い。

(鈴木委員)

六郷高校の生徒を見ていると先生と仲良くやっている。カマクラ行事を見ても生徒と先生の連携プレーが見られた。

3つお聞きしたい。1つ目は、不登校気味の生徒はいるか。

2つ目は就職に関して。求人が増えているだろうが、どんな求人があるか。製造業に就職する生徒が多いと思うが、中学生が六郷高校は普通科と福祉科の学校だから製造業には就けないと考え、別の高校に流れてしまっている可能性もある。こういった情報がきちんと中学校に伝わっていてくれればよいと思う。

3つ目は、先生方から地域への要望はないものか。いつもは我々委員が学校にお願いばかりしているが、逆に委員側が協力できることがあれば伺いたい。

(校長)

不登校については、不登校経験者も入学しているが概ね改善できている。一方で教室に入ることができず、別室で学習している生徒もいる。少人数であることはよいところもあるが、人間関係のグループが少ないためトラブルを抱えてしまえばグループに戻りづらくなり、教室に入りづらくなる生徒もいる。

(進路指導主事)

就職についてであるが、人手不足が顕著であり、建設業、福祉業を中心に様々な業種から求人がある。たくさんある求人の中で製造業を選ぶ傾向はある。進路先の詳細はホームページにアップし、中学生にも体験入学時に情報提供をしている。場所を選ばなければ選択の幅が広がるが、自宅から通える範囲と考える生徒や家庭が多い。

(校長)

有力企業に就職している生徒も多いが、周知が不十分である。3年分の進路一覧は近隣の中学校に紙面で情報提供している。過去に勤務した高校の例であるが、高校生が進路決定した際に、出身中学校に生徒の写真付きで近況報告を送ったことがあった。これは効果があった。

先生方で、協力してもらいたいことはあるか。

(福祉科科长)

福祉科として現状でかなりお世話になっている。

(校長)

教育課程内で地域と連携する時間を設けることができないかと考えており、関係職員と話し合っている。授業で行事を行っていることもあり、望ましくないと考えている。総合的な探究の時間を増やし、その時間で地域と連携する構想はある。来年度から75名定員になるので大きく教育課程を変えていかなければならない。

(高橋委員)

カマクラ行事に際しては1年生に大変お世話になった。雪質も悪く、工夫しながら頑張ってくれた。1年生と先生の頑張りには本当に感謝したい。来年もお願いしたい。

しいたけ栽培について。しいたけの菌床からカブトムシの餌を作り、カブトムシの糞から菌床を作るというサイクルがあるのを知った。しいたけから色々なことが

できている。六郷高校の取組も新たなサイクルを産むかもしれないので、ぜひ続けてもらいたい。

福祉科について、現在7名の福祉科の生徒がいると聞いたが、人数が少ないことは残念ではある。ぜひ希望者が増えるような取組をしてもらいたい。

(長谷川委員)

生徒のアンケート設問21に、髪を団子にしたら注意を受けたとあるが、なぜ団子にしたらだめなのか。

(校長)

経緯は把握している。ある職員が個人的な見解で指導したようである。

(西村委員)

明確な根拠のないことでだめ、理由も分からずだめと言われるのは納得のいかないものである。

(校長)

改善する。個人の感覚で指導していればこのようなことが起こる。時代を見据えながら校則を変えていかないといけないと思う。理由を示すことができるようにしていきたいと思う。

(西村委員)

先生方にとっては長年にわたって守るべきものとして指導してきた背景があると思うが、校則は、生徒や保護者が聞いて納得できるものでなければいけないと思う。

(校長)

校則の見直しが広まっている。しっかり理由付けができるものは生徒も納得できるとは思うが、それ以外のものに関しては改善を図っていく。

(後藤委員)

今年の3年生で美郷町内の企業に内定したものはいるか。

(進路指導主事)

地元企業を希望する生徒も多く、実際に町内に就職している。

(梶原委員)

職員21名に対して分掌が8つもあることに驚いた。多くの分掌に関わることで多角的に捉え職務にあたっているのだと見て取ることができる。

今回、食の交流事業で都内の学生と六郷高校生が関わったが、関係者の中には都内の魅力を知ってしまい、逆に地元から離れてしまうのではないかと危惧する声もあった。仮に一度秋田を離れたとしても、秋田に戻って活躍できるようにするために今後も六郷高校と関わっていきたいと考えている。引き続きお願いしたい。

(西村委員)

eラーニングであるが、先生が見回りにきたとき画面を変えて、その他は別のことをしている生徒もいると聞く。逆に、その時間を好きなことを伸ばす時間にしてもいいのではないか。ただし、その時間に取り組んだことについて1週間後にレポートにまとめさせることで、ただ自由に過ごす時間にはならず学びにもつながる。

(校長)

読書の時間がほしいといった意見があったり、分からなかったことが分かったといった意見もあったりするので、eラーニングの実施方法については今後も考えていきたい。

3 閉会行事

(1) 学校運営協議会副会長あいさつ

丁寧な説明に感謝する。福祉科の生徒を増やす手立てが必要という意見があったが、新しく開設した公式SNSを使い、広く情報発信がされていくものだと感じた。これからの取組に期待する。

地域との連携に関する記述が多く見られたが、先生方も地域連携に関しては手応えを感じているのではないか。ぜひ継続してもらいたい。本協議会もそうだが、全面的に応援する人が地域には多くいる。遠慮なく声をかけてもらいたい。

(2) 校長あいさつ

予定していた時間を超えてしまった。次年度はタイムテーブルを考えていきたい。今日いただいた提言を次年度の学校経営に活かしていく。生徒一人ひとりが活躍できる場を提供しながら、六郷高校に入ってよかったと思えるような学校を作っていく。